

5 学生の受け入れ

進捗状況報告

○施策の目標の達成度を測る指標		公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2005	2006	2007	2008	備考
指標1	入学者に占める一般入試入学者の比率	公開	○	○	%	44.8%	56.6%	49.4%	54.2%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
表	入試形態別入学者数	公開	○	○		→	→	→	→	大学基礎データ15参照
表	学部の社会人・留学生・帰国生徒数	公開	○	○		→	→	→	→	大学基礎データ表16参照
○基礎的な状況を継続的に観測する指標		公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2005	2006	2007	2008	備考
指標2	志願者総数	公開	○	○	人	4,554	3,250	5,989	3,970	
指標3	志願者倍率	公開	○	○	倍	9.5	6.8	12.5	8.3	志願者÷入学定員
指標4	入学者に占める近畿圏出身者の比率	公開	○	○	%					近畿圏出身入学者数÷入学者数 (注)出身は出身高校の地域による

注)全学的な視点、個別的な視点について
全学的な視点とは入試部の進捗状況報告シートに表示される項目
個別的な視点とは各学部の進捗状況報告シートに表示される項目

2009年度の英語特別選抜入試から、エッセー試験を廃止する。また指定校推薦の対象校には、総合政策学部の教育の特色である英語教育について理解を得るように努力する。特記すべき事項としては、2009年度からの学部一括入試である。2008年度までは、学科ごとの募集を行っていたが、2009年度から始まる4学科体制の下では、学部としての一体性を重視した教育を行うので、学部一括入試を行い、各学科別の学生募集は行わないこととした。初年次には、学生は学科に所属しない。これによって、1年生は総合政策学部の教育研究の特色や各学科での教育研究の内容を十分理解することができる。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

「エッセー試験」は、「英語特別選抜入試」の受験生を対象とした学力判定方法のひとつとして、受験生の文章読解能力や論理的思考力を試す入試方法であったが、必ずしも期待したほどにこの方式を受験する学生が多く集まらなかった。そこで、2007年度から、「英語特別選抜入試」ではなく、一般入試において実施することで、受験者の拡大をめざした。2009年度入学生は、入学時は学科所属せず、2年次から学科に所属する。その方法は、志望者が学科ごとの定員を超過した場合は、成績によって配属を決定する予定である。学科分属システムに関する詳しいオリエンテーションを複数回実施し、学科選択までのスケジュールや注意事項を学生にわかりやすく説明する努力をする。さらには、仮に第一希望の学科にいけなかった学生に対しても、学習上のアドバイスを行う。総合政策学部の教育研究の特色は、複数の学問分野に関する学際的で総合的な知識に基づいた政策研究とその実践である。したがって、4つの学科は、ディシプリンとしての独立性を持つものではなく、実際の政策研究においては、相互に連携し、深く関連している。一括入試を行うことで、学生に学部の教育研究の一体性を理解させ、各学科の特色や学際的な研究の方法を理解させることができる。これにより、総合政策学部の教育理念に対する理解をよりいっそう深めることができると期待される。

学内第三者評価

学部設置に際して、本学部の特徴である総合的知識を問うために行われてきた「基礎テスト」による試験や、学部独自入試の一つとして導入された「エッセー試験」（2007年度の追加記述にある「小論文」との関係についての記述が期待される）を廃止する一方、2009年度から新しい入試制度を導入されたが、これら入試制度の結果・成果を今後追跡調査を行い、その結果を自己点検評価の中で公表し、新制総合政策学部にもっとも相応しい入試制度の確立が望まれる。なお、2年次での学科振り分けの方法、そして、志願者倍率の推移についての記述が望まれる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
学部独自入試の実施、学部一括入試と初年次教育をつなぐ理念についての記述が求められる。